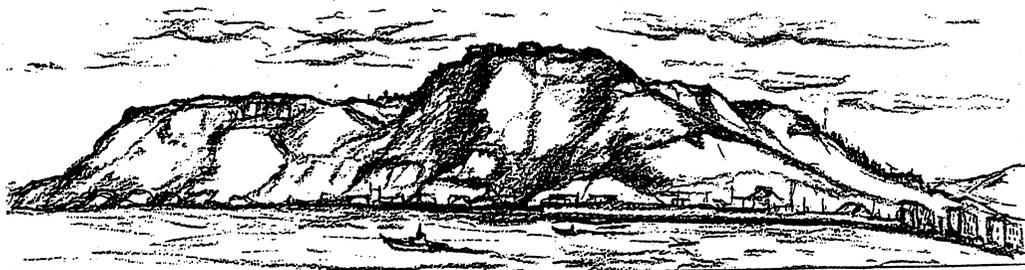


としょかんだより



No. 2

1986年7月

目次

はしがき	附属図書館長	土田 哲也	1
〈利用者の声〉			
大学図書館への思い	教育学部 教授	植松 正	2
学外文献情報の活用	法学部 助教授	上村 貞美	2
図書目録を見ることの勧め	経済学部 教授	伊丹 正博	2
「附属図書館に望むこと」	教育学部 3年	山本 智子	3
	法学部 4年	吉見 章二	3
	経済学部 院生	松下 真知子	4
	農学部 院生	田中 明美	4
〈図書館からのお知らせ〉			
あなたは一年間に何回図書館を利用しましたか	閲覧係・農学部分館事務係		5
学外文献の利用状況・情報検索案内・			
大型コレクション案内・ご存じですか	参考係		6
学外者の利用状況について	閲覧係・農学部分館事務係		7
新着図書案内	整理係		8
附属図書館中央館開館予定	閲覧係		8

はしがき

附属図書館長

土田 哲也

「としょかんだより」第2号をお届けします。昨年10月に創刊されました本誌を継続するにあたり、今年度は、2回発行とし、内容は、利用者の御意見と図書館からのお知らせを中心として編集することにしました。今回各学部の先生、学生の御協力による投稿を頂き、紙面を飾ることができました。御協力に対し感謝申し上げますとともに、今後とも多様な御意見をできるだけ沢山掲載していけますよう各位の御協力をお願い申し上げます。

時代の変化、学問の発展、利用者の要望の多様化などによって、図書館の役割は益々重要になってきています。

古来の人間の英知を時間と空間両面にわたってじっくり検証していくことを望む人もいれば、時代の最先端の状況を一刻も早く知りたいという人もおり、一次資料の収集を要望する声もあれば、二次資料の収集と検索業務の技術向上を要望する声もあります。このような要望を耳にすると、いわば図書館は、時間と空間の無限の広がりへの入口に位置して、利用者を案内する所であるということを痛感します。限られた人的・物的条件の中で要望に応じていくのは大変なことです。利用者各位の声を謙虚に受け止め工夫をこらして対応に努力していきたいと思えます。多くの方から、傍観者ではなく、当事者という立場での忌憚のない御意見、建設的な御意見をお寄せ下さるようお願いいたします。なお、御意見は随時カウンターでも承られるようボックスを設置しています。